

原発講演会

1. 原子炉の構造とメルトダウン

講師：小林圭二（元京都大学原子炉実験所教員）

2. 地震と放射能汚染

講師：萩野晃也（元京都大学工学研究科原子核工学教員）

日時：2011年6月29日（水）13時－16時

場所：京都大学吉田キャンパス，物理工学校舎 313 室（時計台から東へ，1，2号館のさらに東にある8階建てのツインビル）

福島原発については，連日多くの報道が流され，多くの専門家の解説がなされています．しかし，世界中の多くの人々は，何を信じていいのか，何かが隠されているのではないかと疑心暗鬼に陥っています．福島原発はなぜ事故を起こしたのか？ 他の原発は安全なのか？ という問いは依然として疑問符がついたままです．また，「安全神話」，「想定外」，「メルトダウン」，「御用学者」などの言葉が現れました．これらの言葉も，大きな問題をはらんでいます．すなわち，神話はどのようにして作られたか？ 想定は誰がしたのか？ メルトダウンは電源喪失が原因とされているが，地震の振動で配管破損と冷却水喪失が生じたのではないか？ 御用学者と京都大学の関係はどのようなものか？ などがあげられます．これらの問題は科学，とくに工学の本質に根ざしており，この解明なくしては同じ誤りを繰り返します．

このたび，1970年代から原発の危険性を一貫して警告されてきた小林圭二氏と萩野晃也氏を京都大学に招いて，原発の構造，地震との関係，事故の原因，事故の対策，原発の将来，などについて説明していただきます．そして，日本のエネルギーなどの明日の姿について考えましょう．

主催：縮小社会研究会 (<http://vibration.jp/shrink/>)

共催：京都大学安全センター

当日参加可ですが，予約（先着 150 名）は，松久 (matsuhisa@me.kyoto-u.ac.jp) まで．